

## しゅうざんじょうあと 周山城跡の範囲確認調査

調査期間：令和2年 11月24日（火）～ 12月12日（土）  
調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



### 1 調査について

周山城跡は、現在の右京区京北周山町に所在する、安土桃山時代の山城です（図1）。

京都市では、周山城の周辺で林道造成が行われている現状に鑑み、平成28年度に現地踏査や詳細測量図の作成（航空レーザー測量）を行いました。その結果、周山城の各郭の正確な位置と林道の開発状況を把握することが可能となりました。その後も継続的に踏査を実施してきましたが、近年の台風や積雪の影響で多くの石垣が傷んでいることが判明しました。そこで、周山城跡の中でも特に残りの良い石垣について約200㎡の範囲で写真測量を行いました。また、崩落の危険がある箇所について緊急的に石垣の補修を行い、保全を図りました。

### 2 周山城跡について

周山城跡は、明智光秀が築城したと伝わるお城です。周山城で月見をしたという当時の日記の記録から、少なくとも天正9年（1581）には築城されていたことが分かっています。また、豊臣秀吉が天正12年（1584）に周山城を訪れた記録から、少なくともこの頃まで城が存続していたことが分かります。

周山城には、尾根を分断するように二つの大きな堀切があり、堀切の東側を「東城」、西側を「西城」としています。東城は、標高約480mをピークとする丘陵頂部を中心部とし、8つの支尾根に放射状に郭が造られています。一方の西城は、延長200mにわたって広がる郭群です。

### 3 今回の調査成果

今回、周山城跡では初めて石垣の測量調査を実施しました。調査地は、東城の中心部である郭1から西に延びる尾根に位置する郭5・6です（図2）。この郭5の北面と西面に築かれた石垣A・Bと、郭6の北面に築かれた石塁C、石垣Dを測量しました（図3）。

郭5の石垣Aは、残存する高さが最大4.5mあります（図4）。石垣を構成する石材の大きさは約0.5～0.6m角で、石材と石材の隙間には0.1m前後の間詰め石が詰められています。石垣A・Bの隅角部は、角石の小面と大面を交互に組み合わせて積んだ「算木積み」の様相を示す箇所もありますが、過渡的な段階のものと考えられます。郭6の北面に築かれた石塁Cは、高さが約1.2～1.6mあります。東西約21m、幅約1.5mの築地の基礎と考えられます。石垣Dは、木の根など

の影響で石材が崩落している箇所が多く見受けられます。石塁C・石垣Dに用いられた石材は、概ね郭5の石垣A・Bと共通していますが、石垣Dに用いられたと考えられる転落石の中に宝篋印塔の基礎部分を1点確認しました。

周山城跡は、築城から廃城までの時期が限定的であり、その後も大きな改変を受けていないと考えられることから、この時期の築城技術を把握する上で重要な城と言えます。今後も、遺跡保護の前提となる基礎資料を蓄積していくことが望ましいと考えられます。（熊谷 舞子）

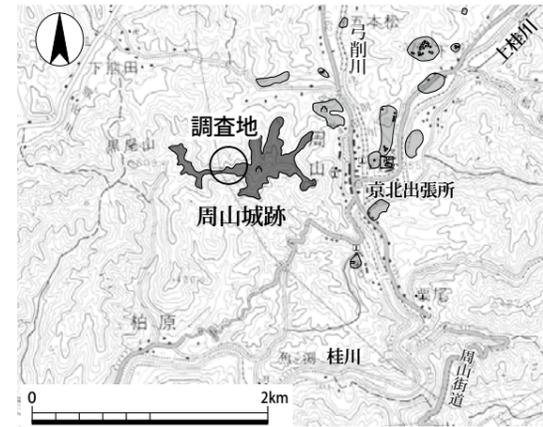


図1 調査位置図（1：60,000）

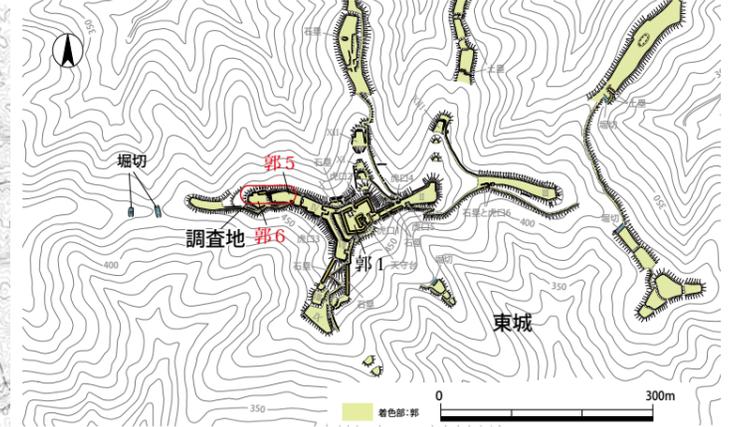


図2 調査位置図（1：10,000）



図3 石垣・石塁 平面図（1：300）



図4 石垣A・B、石塁C 3D画像（北西から）